

令和5年度分 セルフモニタリング報告書

令和 6年 5月 31日

施設名: 早来児童センター
 指定管理者名: 学校法人リズム学園

モニタリング項目	指標	指定管理者コメント	自己評価
1 事業計画の達成度			
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理が行われたか。	利用者数 施設稼働率 (参考)利用料金収入の状況	学童登録人数の増加は依然として続いており、高学年(5～6年生)についても以前は利用しない子がほとんどであったが、利用数も一定数見られる。それに加え、児童センター登録(ランドセル来館利用)についても一定数の登録があるため、施設内の収容キャパが超えてきている。併設の子ども園や子育て支援センターとも定期的な交流・連携は図ることができているため、今後も継続して取り組みとして実施していく。	A・B・C・D
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。		前年度に引き続き、平日の早朝利用や日曜日、年末年始の利用に関する保育の希望が少なからず寄せられている。保護者の就労状況の多様性からの要望の部分もあるが、社会・地域状況とも鑑みながら対応方法を検討していきたい。	A・B・C・D
自主事業は計画どおりに行われたか。	委託事業・自主事業の実施状況及び事業参加者数	放課後子ども教室として4～9月の期間は毎月1～2回程度実施しているが、10月以降については常設化としての放課後子ども教室を見据えて開催回数を増やしている。次年度については、常設化を目指す目的から週3日以上で開催として、多種多様なプログラムを地域との連携も見据えながら検討・実施していく。保護者との連携アプリでの情報共有や、対外向けにはSNSでの情報発信を行いながら日々の活動について興味・関心を持っていただくよう努めている。	A・B・C・D
利用者拡大・事業実施等の情報発信が行われたか	情報発信・事業PR回数	併設している子ども園との協力事業や、事業実施後のSNSでの発信等も随時行うことで町内外からの問い合わせも増えてきている。次年度以降も利用者増が引き続き見込まれている。児童館としての収容数には限りがあることから、活動場所の分散化(地域スペースの活用など)も考え事業を企画し、早来学園地域開放スペースの有効的な活用方法と連携についても検討・実施していく。	A・B・C・D
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	地域・関係団体等との連携	マルシェ活動や放課後子ども教室での地域講師を含めた地位資源の活用もはじめとした連携についても適宜実施している。	A・B・C・D
2 利用者の満足度			
利用者の満足が得られているか。	利用者満足度	年度末に利用者アンケートを実施しており、保護者からの一定数の評価はいただいている。	A・B・C・D
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	苦情・要望の状況(利用者アンケート調査結果)	苦情件数については、R4年度土曜に減少傾向にあるが、特定児童との関わりに対するものがなくなった事により減少はしているが、移住世帯児童を含む相談ニーズが増加している。施設運営に関わる苦情としては0である。	A・B・C・D

利用者の意見・要望・苦情への対応は十分に行われたか。	窓口体制の状況	都度対応していることで実施できている。	A・ ☒ B・C・D
3 管理運営の効率性			
経費の低減は図られているか。またその取組は十分か。	効果的な管理運営取組状況	できる限りの経費削減には努めているが、必要なものについては限界があるほか経年劣化による補修箇所も増加してきており、今後も検討していく必要がある。	A・B・ ☒ C・D
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	効果的な管理運営取組状況	再委託している業務はなし	☒ A・B・C・D
4 適正な管理運営			
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	職員の配置状況	可能な限り実施しており、	A・ ☒ B・C・D
職員の能力向上に向けた取組は行われたか(研修等)。	職員研修の実施状況 マニュアル等の作成 状況委託の状況	施設内外での研修についても実施している。	☒ A・B・C・D
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか(使用料の減免、還付含む)。	利用拒否の状況、平等利用の取組状況	可能な限りの対応は行なっているが、利用についての約束について遵守できない場合については利用制限をしている	☒ A・B・C・D
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか	個人情報保護の取り組み(対策)	守秘義務の徹底についてや個人情報の取り扱いについて十分に配慮の上、実施している。	☒ A・B・C・D
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	収支決算の適正な管理	会計担当により適切な処理をなされている	A・ ☒ B・C・D
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	施設修繕等の状況	子ども園側との連携しながら定期的に実施している	☒ A・B・C・D
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	備品購入廃棄の状況	使用状況や劣化の有無などの状況を見ながら精査しているが、今年度内での廃棄については該当なし	☒ A・B・C・D
安全対策(事故防止等)は十分だったか。	事故等の発生状況 マニュアル等作成状況	子どもの活動状況に合わせながら環境設定を行うなどして、事故防止に努めている	A・ ☒ B・C・D
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	基本協定書及び年度協定書の等遵守	配置職員全体で共通理解を図り、順守に努めた。	☒ A・B・C・D
5 地域貢献			
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	地元発注状況	可能な限り実施しているが、雇用に関しては町外からの人材採用が主となっているため、町内への定住・町内在住者の雇用について引き続き努力する。	A・ ☒ B・C・D

A: 目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。

B: 目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。

C: 概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。

D: 目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。

自己評価



(最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。)

指定管理者の自己評価(全体を通して)

令和5年度の事業運営については、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、活動の制限が緩和された。これまでコロナ禍においては、学童利用、ランドセル来館、児童センター利用ともにやや自粛傾向に感じる部分、実数ともに見られていたが、令和5年5月の5類移行以降について徐々に利用数は伸びていた。

午後の放課後児童クラブ及びランドセル来館利用については、月曜日から土曜日までの開館時には一定の利用数は続いている。利用定員40人の施設キャパであるが、それ以上の利用数があること(多い時期は80人以上の利用)、早来学園の生徒増による学童登録児童数が増加しており、活動場所の確保・分散化についても検討していく必要があると感じている。

従来に引き続き、町内で生活している子どもたちの遊び場の一つとして各種プログラムを計画・実施し、子どもたちの興味関心を確認しながらの場所づくりを行なっている。「児童館＝楽しい場所」として引き続き子どもたちに認知をしてもらうよう努めたほか、子どもたち自身でのプログラム立案や遊びづくりについても行なっており、次年度以降も継続的な働きかけを行なっていくとともに、放課後子ども教室事業についても委託事業として実施していくため子どもたちのニーズをプログラムかしながら選択肢を増やしていくこと、子どものワクワクややりたい気持ちを生かしながら事業展開をしていきたい。

また、地域や学校とのつながりなど最大限の地域資源の活用についても引き続き検討していくとともに、子どもを主体とした活動の展開を考えていきたい。